

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4572200170		
法人名	有限会社 悠々福祉サービス		
事業所名	グループホーム高千穂	ユニット名	1F
所在地	宮崎県西臼杵郡高千穂町大字三田井32582		
自己評価作成日	平成28年10月24日	評価結果市町村受理日	平成29年2月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaikokansaku.jp/45/index_nhp?action=kouhyou_detail_2015_022_kanitrue&liyosvoCd=4572200170-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成28年11月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ゆっくり、一緒に、楽しく」をスローガンに入居者第一の安心安全の確保、栄養管理と味付けに考慮し旬の食材を生かしたおいしい食事の提供、週一回の希望食、普通食が食べられない入居者の為の特別食の配慮など楽しみながらたべて頂く食事に心がけている。医療面では夜間救急対応の出来る町立病院がすぐ近くにあり医療面での対応が即受けられる。周辺には温泉や四季折々の変化が楽しめる美しい山々があり静かな環境にある。週1回の役職会議と月1回の職員会議では経営者、管理者も参加し職員の意見が運営に反映されるようになっている。地域との交流も5月のこいのぼり運動会など近くの老人クラブの方々に参加いただき交流している。また、故郷めぐりのドライブなどでなじみの人や思い出の場所との関係が途切れないよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然豊かな環境の中で、職員は毎日の生活を大切に、理念である「ゆっくり、一緒に、楽しく」を念頭におき、利用者が安心して明るく穏やかに過ごせるよう支援に努めている。地域で行われる季節のイベントでは、参加できない利用者のために各団体が交互にホームに向向いてくれたり、主催するこいのぼり運動会は、地域の人も心待ちにしているなど、地域との深いつながりを築いている。また、医療支援ではかかりつけ医との連携を図り、近隣にある町立病院は夜間救急対応ができるなど、安心できるホームの一因にもなっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	1F	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆっくり一緒に楽しく」をスローガンに利用者に対するケアの実施の際理念の実践を心がけている。		ホーム内各所に理念を掲げ、職員が常に意識できるようにしている。職員もそれを意識し、努めて利用者の時間に沿って支援するようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事(運動会や町の祭り)の際に地域の方々を招待したり踊りの慰問、中学生の体験学習などで交流を図っている。		ホーム主催でこのほり運動会を開催し、老人クラブ等を招待するなど、積極的に地域とつながるよう努めている。近隣の小学生が日常的に訪問してくれることは、利用者の楽しみの1つとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームの活動内容を定期的にホーム便りにして発行することで理解を深めている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月ごとに実施し活動報告を行い意見や感想を聞くことでより良いサービスが出来るよう活かしている。		ホームの活動状況を報告するなど、積極的に情報を提供し、意見をもらえるよう努めているが、なかなか意見が出ないなど一方的な会議になることもある。	話し合いを積極的に行い、外部からの意見を取り入れ、一層のサービス向上につながるよう取り組むことを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議で町の福祉関係者、社協、民生委員、公民館長(地域代表)などの意見を聞き質の向上に取り組んでいる。		町の関係機関とは、ホームの現状や取組を報告したり、ささいなことでも気軽に相談するなど、良好な関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間の玄関の施錠以外は自由に行き来が出来る様にしている。		定期的に行う研修会でも身体拘束の弊害について認識しているが、徘徊で危険があるときは2階のみ施錠することがある。その場合、家族には説明し、納得を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議や研修の場を通して勉強の機会をもうけ周知に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	1F	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の目的について学ぶ機会を全体会議などで持ち活用できるよう支援している。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約の際は納得のいくまで十分な説明を行い改正点等については面会や家族会などを利用して理解・納得を図っている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用料の支払いや面会時に職員と話す機会をもうけ要望などを聞く機会を作り信頼関係につなげている。		利用料の支払いを直接受け取るようにしたり、家族会や敬老会など、家族が来訪する機会を積極的に設け、意見や要望を聞いている。また、出された意見・要望を運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議で意見や提案を聞く機会をもうけ反映させている。		管理者やリーダーは職員の意見を聞き、話し合うことを心掛け、職員も忌憚のない意見を出せる機会がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月の職員会議に全職員と経営者も参加し意見交換を行える時間を作り職場環境、条件の整備に努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員会議でテーマに沿った勉強会の実施や福祉関係の研修の参加を交代で行えるよう機会をもうけている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の施設とは情報交換をし研修会などにも参加させていただいている。			

自己	外部	項目	自己評価	1F	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日々のコミュニケーションにより話に耳を傾け不安を取り除けるように信頼関係を築くようにしている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会など会える機会を利用して不安や要望など意見を聞けるよう関係づくりに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報収集やサマリーをもとに観察し状況変化に気づくよう努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個人の気分や好みに応じてドライブや散歩、掃除、洗濯ものたたみなどに関わっていただきいい関係を築いている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の生活状況の写真やコメントをたよりに載せ本人と家族をともに支えていく関係を築いている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ふるさとめぐりのドライブを計画しなじみの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	ふるさとを巡る定期的なドライブなどをおして、懐かしい場所やなじみの人との関係が途切れないよう努めている。また、地域の祭りに参加できない利用者のために踊りに来てくれるなど、地域の協力も得ている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の個性を考慮しお互いなるべく衝突しないよう席替えをしたり声掛けに注意を払っている。			

自己	外部	項目	自己評価	1F	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて電話連絡や面会を行い家族と出会う機会があれば報告を行っている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとり面接をしどのように暮らしていきたいか思いを尋ねる。困難な場合は「イエス」「ノー」を頭をふって答えられるよう工夫をしている。		日常の会話や動作から意向を汲み取り、また、一人ひとりと面接を行い、思いや希望の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族に伺っている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の朝夕の申し送りの中で個別の状況報告を受け現状の把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族と話し合ったり遠方の場合は文書を頂いたり面接のときに意見を伺ったりして作成している。		来訪時などに介護計画についての意見や要望を聞くようにしている。また、日々の記録や申し送りなどから職員の意見も取り入れ、介護プランに反映させていることから、記録の重要性を感じている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日報、介護カルテ、排泄確認表などの情報を共有し日々の体調の変化の報告を受け検討、見直しをしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに対して必要な支援、サービスの多機能化に取り組んでいる。			

自己	外部	項目	自己評価	1F	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の消防団との総合防災訓練、中学生の体験学習、踊りの慰問などで交流を図っている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の定期的な受診や急変時の受診の速やかな家族への連絡を行っている。	町内のかかりつけ医には職員が受診に同行し、日頃の状態をまとめて医師に伝え、適切な治療が受けられるよう支援している。また、その結果を家族に報告している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要に応じて看護師に連絡・相談し適切な受診や看護が受けられるよう支援している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には必要な情報を医療機関に提供し入院中は面会、洗濯など必要な援助を行い病院関係者と情報交換や相談に努めている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に事業所で出来ることと今後重度化した場合に出来ることを本人家族に説明している。	重度化や終末期の対応等については入所時に説明し、了承してもらっている。今後は、書類の整備など、家族と定期的に話し合えるよう準備を行う予定である。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会を行ったり救急隊員の指導による訓練を受け実践力を身につけるよう努力している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の消防団との合同避難訓練を行ったり自主避難訓練を行っている。また緊急連絡網を作成し有事に備えている。	夜間を想定した訓練を含め、地域の消防団との合同訓練や自主避難訓練を行っている。また、有事に地域の協力を得られるよう、普段から地域との交流を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	1F	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に対して思いやりのある言葉かけやプライバシーを損ねない言葉かけの対応に努めている。		利用者一人ひとりのプライバシーに配慮し、言葉を選び対応するなど、人格を尊重した対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	介護度により自己決定が難しい人もおられるが出来るだけ自己決定が出来るよう声掛けなどで工夫している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースや状態に合わせ希望に沿って支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な散髪、髭剃りの実施同じ洋服にならないよう心がけその人らしいおしゃれが出来るよう支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のあいさつやテーブル拭き、片付けなど出来ることを職員と一緒にしていただいている。		野菜切りや後片付けなど、利用者の意欲や能力に応じ職員と一緒にやっている。栄養士による栄養管理の行き届いた食事を、職員と一緒に食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の献立と調理でバランスよく摂取できるよう工夫されている。チェック表で食事の量、水分摂取量なども毎日確認している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりその人に合った歯ブラシや口腔ケア用品を使用し磨き残しがないかチェックしている。			

自己	外部	項目	自己評価	1F	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンとチェック表で観察しながら自立に向けた支援をしている。		身体状況や認知症状に応じ、ポータブルトイレを使用するかなどの支援方法を決めたり、チェック表で排せつパターンを観察し、自立に向けた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事による予防も心がけているが散歩、体操などで体を動かす工夫をしたり、医師の指示により便秘薬を使用する事もある。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人の希望やタイミングに合わせて順番を変えたり入浴剤を使ったりして温泉気分を味わっていただいたりその時々体調に合わせた支援をしている。		一人ひとりの希望を取り入れ柔軟に対応している。また、入浴を楽しめるよう入浴剤を使い温泉気分を演出するなど、工夫した入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎日の居室の清掃、寝具の洗濯などで気持ち良く過ごせるよう支援し、ベッドやたたみ、洋室、和室などの個々の好みやADLにより安心して眠れるよう支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎日の申し送りで報告して全員把握している。また常に症状の変化の確認にも努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合った役割を持つことで支援している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブに出かけたり、散歩をしたり、家族の面会時にも外出する機会を作っていたいっている。		日常的に庭や近隣を散歩したり、常置してある椅子に腰掛けくつろいだ時間を過ごすことができる環境にある。また、近隣へのドライブやふるさと巡りのドライブは好評で、楽しみの1つになっている。	

自己	外部	項目	自己評価	1F	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現状では本人には金銭管理はお願いしていない。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば本人に代わったり自由に家族にかけたり、手紙が来たら状況に応じ直接読んでいただいたり希望があれば読んであげたりしている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やホールなどには季節の花を飾ったり季節や行事に合った飾りつけを入居者とともに作り掲示している。また、空調を使い温度、湿度の調整をしたりお香(アロマ)をたいたりして居心地良く過ごせるよう工夫している。	適温に調節された共用空間には、季節の花や作品、写真などを掲示しており、居心地良く過ごせる工夫がなされている。また、居室やトイレも迷うことのないようわかりやすい表示にしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールで共に過ごせるようテレビの位置やソファやテーブルの配置などにも工夫をしている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族などの要望を取り入れながらなじみのある寝具や思い出の写真などを飾ったりして居心地良く過ごせるよう工夫している。	利用者の要望に沿い、なじみの寝具やたんすなどを持ち込んでもらい、配置も自由に行っている。また、家族の写真や自分で作った作品を掲示し、自分らしい居室にすることで、自宅という意識を高める配慮・工夫がなされている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室などをわかりやすいように表示し居室も花の名前にし個々のADLに合わせた居室の利用が出来る様に工夫している。			